

施策No.	政策名	快適な暮らしのまちづくり	主管課	建設課	主管課長名	上野 誠一
5-3	施策名	道路網の整備	関係課	なし		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度		
	市内の道路  利用者が安全で快適に通行できる環境が整っている。	①市内道路延長(国道、県道、市道)	見込値	km		1,638	1,639	1,640	1,641	1,642	
実績値						1,623					
見込値											
						実績値					
見込値											
						実績値					
②道路未改良延長(一級・二級市道) ③市内の道路が安全だと感じる市民の割合 ③危険箇所数(通学路)		目標値	m			20,000	19,700	19,400	19,100	18,800	
						実績値	20,434				
		目標値	%				22.5	25.0	27.5	30.0	32.5
							実績値	20.8			
		目標値	箇所				56	55	54	53	52
							実績値	21			
目標値											
					実績値						
目標値											
					実績値						

  

成果指標設定の考え方	○市内の道路交通については、①で幹線道路の改良が進んでいるか、②で市民が道路の安全性にどの程度満足しているか、③で危険箇所数で通学路の安全対策が進んでいるか、で把握する。
成果指標の把握方法と算定式等	○①道路未改良延長(一級・二級市道)は、国土交通省道路局の道路施設現況調査より求める。②市内の道路が安全だと感じる市民の割合は、市民アンケートより求める。③危険箇所数(通学路)は、通学路安全推進会議(通学路交通安全プログラム)より求める。

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がすべて向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 向上した成果が多かった	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 低下した成果が多かった	<input type="checkbox"/> 成果がすべて低下した	
背景・要因	・前年度まで「道路整備と公共交通の充実」という施策であり、今年度より施策を二つに分けたため、以前から引き継いだ成果指標が「市内の道路が安全だと感じる市民の割合」のみの比較となる。 ・以前は20%台であったが、東日本大震災により落ち込み、そこから毎年の道路改良・補修の成果もあり、徐々に毎年回復し、昨年度20%を超えるまで戻った。		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input type="checkbox"/> 目標値を上回ったものが多かった	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値を下回ったものが多かった	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	①道路未改良延長(一級・二級市道)については、幹線道路の改良ということで、予算との兼ね合いもあり、目標値には及ばないが着実に数値を伸ばしている。 ②市内の道路が安全だと感じる市民の割合については、目標値には及ばなかったが、徐々に毎年向上している。 ③危険箇所数(通学路)については、道路補修の優先箇所として危険度を重視しているため、かなりの箇所数を対応した。		

3. 施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対しての総括	今後の課題・方針
29年度においては、「市道」を重点対象に、「市道の整備」を目標に重点的に取り組んだ。 事務事業貢献度評価結果から、施策の成果向上に貢献した事務事業は、「上曾トンネル整備事業調整協議会事業」「橋梁長寿命化修繕事業」「道路補修事業」「道路改良事業」であった。 ・「上曾トンネル整備事業調整協議会事業」では、調整協議会を開催し、各々の財源調整や、関係機関との連絡調整を行い、上曾トンネル整備の促進を図ってきた。 ・「橋梁長寿命化修繕事業」では、橋梁の定期点検を基に早期措置が必要な箇所及び予防保安として措置が望ましいものに対して修繕を行っている。 ・「道路補修事業」では、通行車両及び歩行者等の安全確保を優先させながら維持補修工事を行っている。 ・「道路改良事業」では、地元説明会、測量、設計、工事発注を計画的に行い、道路改良率の向上に努めた。	・「上曾トンネル整備事業調整協議会事業」については、県、石岡市との連携により行っていく事業であるため、様々な調整が必要であり、特に財政面での調整が難しい。 ・「橋梁長寿命化修繕事業」については、橋梁数が多く、定期点検による修繕対象橋梁数もかなりあるため、望ましい状態までに補修するには、国庫補助金、市予算ともに厳しい状況のため、真に補修が必要なものを見極める必要がある。 ・「道路補修事業」については、少ない財源の中、地区からの要望がかなり多いため、優先順位を見極めながら補修を行っていく必要がある。 ・「道路改良事業」については、国庫補助金を利用しながら計画的に推進していく必要がある。